

## 社会学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
理論社会学特論Ⅰ	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	後期 木曜日 2講時	
理論社会学特論Ⅱ	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	後期 火曜日 4講時	
社会変動学特論Ⅰ	死と死にゆくことの社会学	2	田代 志門	前期 水曜日 2講時	
社会変動学特論Ⅱ	環境社会学	2	青木 聡子	前期 月曜日 5講時	
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川 直人	前期 水曜日 3講時	
社会学特論Ⅱ	社会と文化芸術の共進化	2	小松田 儀貞	通年集中 その他 連講	
社会学特論Ⅲ	日本の思想遺産・主婦論争を 読む	2	妙木 忍	後期 水曜日 2講時	
社会学研究演習Ⅰ	質的社会調査法	2	永井 彰	前期 金曜日 2講時	
社会変動学研究演習Ⅰ	スティグマの社会学	2	田代 志門	後期 水曜日 4講時	
社会変動学研究演習Ⅲ	社会運動の社会学——社会運 動研究を読む	2	青木 聡子	後期 月曜日 5講時	
理論社会学研究演習Ⅱ	批判的社会理論の今日的可能 性	2	永井 彰	後期 水曜日 5講時	
理論社会学研究演習Ⅲ	リスクと不確実性の社会学	2	小松 丈晃	前期 火曜日 2講時	
社会学研究実習Ⅰ	社会調査実習(1)	2	永井 彰	前期 金曜日 3講時 前期 金曜日 4講時	
社会学研究実習Ⅱ	社会調査実習(2)	2	永井 彰	後期 金曜日 3講時 後期 金曜日 4講時	

科目名：理論社会学特論 I / Theoretical Sociology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM24211, 科目ナンバリング：LIH-SOC601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論
2. Course Title (授業題目)：Social Theory of J. Habermas
3. 授業の目的と概要：ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.
5. 学習の到達目標：ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. イントロダクション
  2. ハーバーマス研究の視座と方法
  3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
  4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
  5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
  6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
  7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
  8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
  9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
  10. コミュニケーション行為概念の再規定
  11. 生活世界論の再構成
  12. 生活世界とシステム
  13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
  14. 再構成的社会学の可能性
  15. 講義のまとめ
8. 成績評価方法：

(○) 期末レポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]
9. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。
10. 授業時間外学習：授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。  
授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論社会学特論Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM22407, 科目ナンバリング：LIH-SOC602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and non-knowing

3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有り様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知(想定外)の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.

5. 学習の到達目標：・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再考—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%+レポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示する

10. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定

授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会変動学特論 I / Theory of Social Change (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM13208, 科目ナンバリング：LIH-SOC603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、かつてないほどの個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、終末期医療に関する様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には、授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from a sociological perspective.

5. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to encourage students to think about issues of death and dying from a sociological perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1) 終末期医療の現場へ
3. 現代社会における死 (2) なぜ死生観が時代の問いになるのか
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2) 安楽死運動の社会的文脈
6. 中間まとめ
7. 終末期ケアの社会学 (1) 近代ホスピス運動とは
8. 終末期ケアの社会学 (2) ホスピス・緩和ケアの課題
9. 終末期ケアの社会学 (3) 鎮静と安楽死
10. 死生観の社会学 (1) 死生観とは
11. 死生観の社会学 (2) 死者との邂逅
12. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生
13. 死と死にゆくことの現在 (1)
14. 死と死にゆくことの現在 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016 年）

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』（東京大学出版会、2022 年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020 年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会変動学特論Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM11503, 科目ナンバリング：LIH-SOC604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境社会学

2. Course Title (授業題目)：Environmental Sociology

3. 授業の目的と概要：この授業は、(1)人間社会は自然環境をどのように変化させたのか、(2)自然環境の変化によって人間社会にはどのような影響が生じたのか、(3)自然環境の変化とそれによる人間社会への影響に対して人々はどのような取り組みをしてきたのかについて、環境社会学の観点や分析手法を理解することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this class is to understand environmental sociology perspectives and analysis methods focusing on;

1 How human societies have changed their environment?

2 How these changed environment has influenced human societies?

3 How people react to change of environment and their influence?

5. 学習の到達目標：環境問題による被害の発生・深刻化のメカニズムと、環境問題に向き合う人びとの取り組みを、社会的な観点から説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Sociological understanding of;

1 The mechanism of occurrence and intensification of damages caused by environmental problems

2 Actions of people who confront with environmental issue

7. 授業の内容・方法と進度予定：

テーマごとに代表的な事例を取り上げる。教員による講義に加えて学生によるディスカッションの時間も設けながら授業を進める。

1 イントロダクション——環境社会学とは何か？

2 環境問題の構造をとらえる(1)——被害・加害構造論①

3 環境問題の構造をとらえる(2)——被害・加害構造論②

4 環境問題の構造をとらえる(3)——受益圏・受苦圏論①

5 環境問題の構造をとらえる(4)——受益圏・受苦圏論②

6 環境問題の構造をとらえる(5)——社会的ジレンマ論①

7 環境問題の構造をとらえる(6)——社会的ジレンマ論②

8 中間のまとめ

9 環境問題と向き合う人びとをとらえる(1)——社会運動論の理論的視座

10 環境問題と向き合う人びとをとらえる(2)——環境運動の事例に学ぶ①

11 環境問題と向き合う人びとをとらえる(3)——環境運動の事例に学ぶ②

12 環境問題と向き合う人びとをとらえる(4)——環境運動の事例に学ぶ③

13 環境社会学の諸研究(1)——順応的ガバナンス論

14 環境社会学の諸研究(2)——生活環境主義の視点

15 まとめ

8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加40%、課題レポート60%

9. 教科書および参考書：

テキスト：時間ごとに文献を指定します。

参考書：授業の際に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理して持ってきてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

特になし

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LM13306, 科目ナンバリング：LIH-SOC605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的フィールドワーク概論
2. Course Title (授業題目) : Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology
3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたつて、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will learn methods and theories in sociological qualitative inquiry in deeper meaning, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection, observation of everyday life, and writing fieldnotes. On this ground, students will learn the difference between the modern version and the post-modern version of qualitative inquiry, and understand new criteria, ethics, and responsibilities as a researcher.
5. 学習の到達目標：1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。  
2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。  
3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through this course students will become able to 1) understand methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits in detail, 2) acquire enough knowledge to conduct some fieldwork or interview, and 3) make deeper consideration on morals, ethics and responsibilities as a researcher.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。
  1. 質的分析法入門
  2. 感受概念
  3. 方法としてのフィールドノート
  4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
  5. 聞き書き
  6. インタビュー
  7. 自然主義的観察
  8. 参与観察
  9. グラウンデッドな接近法
  10. エスノメソドロジー
  11. エスノグラフィー
  12. 事例分析とモノグラフ
  13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
  14. アクション・リサーチ
  15. 調査倫理
8. 成績評価方法：  
平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。
9. 教科書および参考書：  
デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材の読み物としてオリジナル資料を作成する。  
Books and papers will be introduced in class, such as Handbook of Qualitative Research by Denzin and Loncoln, Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et. al. (1995), Dictionary of Qualitative Inquiry by Schwandt (2007), Japanese Rural Sociology and the Modern World by Hosoya (1998), etc., with original texts written by the lecturer.
10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。  
Students are required reparatory readings and some home works.
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：小松田 儀貞

コード：LM98822, 科目ナンバリング：LIH-SOC606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会と文化芸術の共進化

2. Course Title (授業題目) :Coevolution between Society,Culture and Art

3. 授業の目的と概要：本講義では、社会と文化芸術の関係を「共進化的動態」の過程として捉え、その相互関連と現代的様相について事例と理論的課題を通して検討する。今日的なアートをめぐる問題を、地域、アートプロジェクト、社会的包摂、社会実装、文化と経済、公共性、市民社会等の論点から概観すると共に、その課題と展望について考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) :In the course, taking relations between society, culture and art as a process of "coevolutionary dynamics", we examine its interrelations and the actual conditions through the cases and theoretical problems.We review problems concerning "art" in our times, focusing issues on community, artproject, social inclusion, implementation, culture-economy relations, the public, civil society etc. and give consideration to its challenges and prospects.

5. 学習の到達目標：地域や社会と文化芸術の今日的な関係性について理解を深め、そのことを通じてこの問題の課題と展望を認識できるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) :The purpose of the course is to help students (1)understand the actual relations between community(society),culture and art,and (2)recognize its challenges and prospects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に講義形式を取るが、討論の時間を設ける予定である。

1. イントロダクション
2. 地域と文化芸術 (1) アートプロジェクトの展開
3. 地域と文化芸術 (2) 「地域活性化」の模索
4. 地域と文化芸術 (3) コミュニティと参加
5. 地域と文化芸術 (4) 社会実装の諸相と「地域アート」批判
6. 文化と社会・経済の間 (1) 文化政策と文化の経済化
7. 文化と社会・経済の間 (2) 文化資源と文化資本
8. 文化と社会・経済の間 (3) 「プロジェクト」から「制度」へ
9. 理論的課題 (1) 〈近代〉と〈芸術〉
10. 理論的課題 (2) 〈芸術化〉の諸相
11. 理論的課題 (3) 文化社会学の展開
12. 市民社会と文化芸術 (1) 文化の民主化と文化デモクラシー
13. 市民社会と文化芸術 (2) 文化と政治
14. 市民社会と文化芸術 (3) 公共性と公衆 文化的シティズンシップのゆくえ
15. まとめ 総括と課題

8. 成績評価方法：

講義コメント (40%) とレポート (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書として、小松田儀貞『社会化するアート／アート化する社会 社会と文化芸術の共進化』水曜社  
その他必要に応じて指示する。

10. 授業時間外学習：アートやアートをめぐる状況について各自下調べしておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

特になし

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LM23205, 科目ナンバリング：LIH-SOC607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む
2. Course Title (授業題目)：Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本の社会史の変遷を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライフコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019年、上野千鶴子さん）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to give an overview of socio-economic change in Japan and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite also concerning men and wider society, and why controversy regarding women's choice of life course continues even as the era and talking points change. Furthermore, through a reading of Chizuko Ueno's 2019 Matriculation Ceremony Congratulatory Address at the University of Tokyo, this course will help students grasp social problems in Japan from the perspective of gender, and explore how we can take independent action to change society.
5. 学習の到達目標：日本における社会史の変遷やジェンダー規範の変容について理解する。  
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。  
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students understand socio-economic change and the transformation of gender norms in post-war Japan.  
It also aims to consider social problems from the perspective of gender.  
Furthermore, it is intended to help students think about issues of concern to them, to pose their own questions about those issues, and to solve them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。  
  
第1回 イン트로ダクション  
第2回 家族の戦後体制と統計データ  
第3回 主婦論争とは何か  
第4回 第1次主婦論争 (1950年代)  
第5回 第2次主婦論争 (1960年代)  
第6回 第3次主婦論争 (1970年代)  
第7回 第4次主婦論争 (1980年代)  
第8回 第5次主婦論争 (1990年代)  
第9回 第6次主婦論争 (2000年代)  
第10回 主婦論争の通時的分析  
第11回 日本におけるジェンダー規範の変容  
第12回 東大祝辞(2019年)を読む  
第13回 発表と討論①  
第14回 発表と討論②  
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：  
授業への関与度 (15%)、出席 (15%)、発表 (20%)、レポート (50%)
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。  
No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.
10. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。  
Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》



**12. その他：**

毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

Students will be requested to complete a response card at the end of each class.

科目名：社会学研究演習 I / Sociology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM15209, 科目ナンバリング：LIH-SOC608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的社会調査法
2. Course Title (授業題目)：Qualitative Research Methodology
3. 授業の目的と概要：質的調査法について学ぶとともに質的調査法に基づいた調査設計を考えることのできる能力を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the understanding toward a qualitative social research and to acquire the basic skills for collecting and analyzing qualitative data. Participants will be able to cultivate the practical abilities needed to conduct a qualitative research.
5. 学習の到達目標：・質的社会調査の歴史と意義を理解できるようになる  
・質的社会調査の方法にとってデータを収集・分析できるようになる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, participants should be able to (1) understand the history and significance of qualitative research methodology and to (2) collect and analyze the qualitative data.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 第1回：授業のガイダンス
  - 第2回：質的調査法の考え方
  - 第3回：質的調査法の技法
  - 第4回：フィールドワークの考え方
  - 第5回：フィールドワークの技法
  - 第6回：参与観察の考え方
  - 第7回：参与観察の技法
  - 第8回：生活史調査の考え方
  - 第9回：生活史調査の技法
  - 第10回：研究計画書の構想法
  - 第11回：研究計画書の作成
  - 第12回：研究計画書の発表と討議
  - 第13回：研究計画書の再作成
  - 第14回：研究計画書の評価
  - 第15回：授業のまとめ
8. 成績評価方法：

平常点 50% + 提出物 (論文・レポート) 50%による
9. 教科書および参考書：

岸政彦ほか著『質的社会調査の方法』有斐閣、2016年
10. 授業時間外学習：受講者は、毎回、次の授業で報告するための資料を作成すること
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：社会変動学研究演習 I / Theory of Social Change(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM23409, 科目ナンバリング：LIH-SOC609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スティグマの社会学
2. Course Title (授業題目) : Sociology of stigma
3. 授業の目的と概要：「スティグマ」概念はゴフマンが提案した概念のなかでも最もよく知られていると同時に最も誤用されてきたとされる。本演習では『スティグマ (Stigma)』を出版当時の文脈を踏まえて丁寧に読み解くとともに、今後経験的研究においてこの概念をどのように活かすことができるかを検討する。具体的には、複数の重要な二次文献や関連文献と併せて『スティグマ (Stigma)』を読み、そのうえでスティグマ概念を用いた国内外の研究論文を幾つか取り上げることにはしたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides an overview of the sociology of stigma, focusing on the work of Erving Goffman.
5. 学習の到達目標：(1) ゴフマンのスティグマ論を正確に理解する  
(2) スティグマ概念の経験的な研究への活かし方を学ぶ
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aim of this course is for students to understand the sociological concept of stigma and its application.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 演習の進め方について
  2. ゴフマン社会学を学ぶ (1)
  3. ゴフマン社会学を学ぶ (2)
  4. ゴフマン社会学を学ぶ (3)
  5. 『スティグマ (Stigma)』を読む (1)
  6. 『スティグマ (Stigma)』を読む (2)
  7. 『スティグマ (Stigma)』を読む (3)
  8. 『スティグマ (Stigma)』を読む (4)
  9. 『スティグマ (Stigma)』を読む (5)
  10. 中間まとめ
  11. スティグマに関する経験的研究の展開 (1)
  12. スティグマに関する経験的研究の展開 (2)
  13. スティグマに関する経験的研究の展開 (3)
  14. スティグマに関する経験的研究の展開 (4)
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

Erving Goffman, Stigma, Prentice-Hall, 1963 (『スティグマの社会学』せりか書房、2016 年)  
薄井明『『スティグマ』というエニグマ』(誠信書房、2022 年)
10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会変動学研究演習Ⅲ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM21506, 科目ナンバリング：LIH-SOC610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会運動の社会学——社会運動研究を読む
2. Course Title (授業題目)：Sociology of Social Movements: Reading social movement studies
3. 授業の目的と概要：本演習では、社会運動について書かれたさまざまな研究論文の講読を通じて、(1)NPO/NGO、ボランティア、社会運動を多角的にとらえるための理論や分析枠組みを理解することと、(2)学術論文を批判的に読む能力を身に付けることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will read various research papers written about social movements for the following two purposes:  
(1) To understand the theory and analytical framework for understanding NPOs/NGOs, volunteers, and social movements from multiple perspectives.  
(2) Acquiring the ability to read academic papers critically.
5. 学習の到達目標：(1)具体的な事例をふまえて社会運動の多様な側面を理解し、さまざまな社会問題と向き合う人びとをとらえる手法を身に付ける。(2)研究論文を自らの問題関心や社会的・社会学的文脈の中に位置づけて読むことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Understanding various aspects of social movements based on concrete examples, and to acquire methods to understand people facing various social problems. (2)Being able to read research papers by placing them in their own problems and social/sociological contexts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
NPO/NGO、ボランティア、社会運動の基礎知識や理論および分析枠組みについて概説したのちに、NPO/NGO、ボランティア、社会運動について書かれた学術論文を毎回 2 本程度講読する。
  - 1 イントロダクション
  - 2 社会運動の定義と類型
  - 3 社会運動をとらえる理論、分析枠組み——社会運動論の展開
  - 4 社会運動をとらえるさまざまな視点
  - 5 社会運動の論文講読(1)
  - 6 社会運動の論文講読(2)
  - 7 社会運動の論文講読(3)
  - 8 社会運動の論文講読(4)
  - 9 社会運動の論文講読(5)
  - 10 社会運動の論文講読(6)
  - 11 社会運動の論文講読(7)
  - 12 社会運動の論文講読(8)
  - 13 社会運動の論文講読(9)
  - 14 社会運動の論文講読(10)
  - 15 まとめ
8. 成績評価方法：  
授業への参加(報告、ディスカッション) 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：  
テキスト：時間ごとに毎回文献を指示します。  
参考書：長谷川公一編，2020、『社会運動の現在——市民社会の声』有斐閣。  
濱西栄司・鈴木彩加・中根多恵・青木聡子・小杉亮子，2020『問いからはじめる社会運動論』有斐閣。
10. 授業時間外学習：指定されたテキストを予習して自分なりに論点をまとめ、質問やコメントができるようにしておいてください。自分が報告を担当する際には、関連する文献や資料なども踏まえたうえで報告資料を作成し、十分な説明ができるよう準備してください。
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
  12. その他：  
初回には必ず出席してください。出席できない場合には事前に連絡をください。

科目名：理論社会学研究演習Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM23509, 科目ナンバリング：LIH-SOC611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：批判的社会理論の今日的可能性
2. Course Title (授業題目)：Actuality of the Critical Social Theory
3. 授業の目的と概要：ハーバーマスやホネットらのテキストにそくして、「批判的社会理論」と総称される一連の知的営為がいかなる社会認識や社会分析の論理を内包し、それが現代社会の批判的分析にいかなる寄与をなしているのかを検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will examine what kind of logic of social cognition and social analysis is contained in the theory collectively called "critical social theory", based on the texts of Habermas and Honneth. This course also examine what contribution this theory can make to the critical analysis of modern society.
5. 学習の到達目標：ハーバーマスの理論の基本的な考え方について理解できるようになる。  
ホネットの理論の基本的な考え方について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to understand the basic ideas of Habermas's theory.  
Students will be able to understand the basic ideas of Honneth's theory.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. イントロダクション
  2. ハーバーマス理論の今日的可能性
  3. ホネット理論の今日的可能性
  4. 社会理論としてのハーバーマス理論
  5. EUの正統性とそのポテンシャルティ
  6. フォアストの政治理論
  7. ハーバーマスの普遍化原理と討議倫理学の展開
  8. ハーバーマスとルーマン
  9. ハーバーマスの宗教論
  10. ホネット承認論と教育
  11. ホネットとアメリカ批判的社会理論
  12. 承認の忘却としての物象化
  13. 現代社会における自由の在処
  14. ホネットにおける社会的自由と新自由主義批判
  15. 総括討論
8. 成績評価方法：  
授業開始前の課題提出（40%）、授業期間中の課題提出（20%）、および授業後のレポート提出（40%）により評価する。
9. 教科書および参考書：  
永井彰・日暮雅夫・舟場保之編著『批判的社会理論の今日的可能性』晃洋書房、2022年。
10. 授業時間外学習：授業開始前に、教科書の指定箇所を読み、質問事項をレポートとして提出する。授業期間中は、授業で得た知見を書面にて提出する。授業後に、教科書を再読し、レポートを作成する。詳細はクラスルームに記載する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論社会学研究演習Ⅲ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM12210, 科目ナンバリング：LIH-SOC612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and uncertainty

3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つとなっている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかにかに論じるかを探ってみたい。とくに「意図せざる結果」について重点的に考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Risk” and “uncertainty” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern society which has become a “risk society” through doing a close and careful examination of the text: “The Risk Society Revisited: Social Theory and Governance” by Eugene A. Rosa, Ortwin Renn, and Aaron M. McCright. In particular, we will focus on “unintended consequences.”

5. 学習の到達目標：・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する

- ・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ
- ・「意図せざる結果」の概念的な広がりについて知る

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goals of the course are:

- (1) Students will develop the reading skills to understand the sociological English texts
- (2) Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.
- (3) Students will become aware of the conceptual extent of “unintended(or unexpected) consequences”.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODククション
2. リスク論の社会(科)学的基础(1)
3. リスク論の社会(科)学的基础(2)
4. リスクと社会理論(1)
5. リスクと社会理論(2)
6. リスクと社会理論(3)
7. リスクと社会理論(4)
8. システミックリスクの出現
9. リスクの類似概念：複雑性、不確実性、多義性
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. 「意図せざる結果」の社会学(1)
13. 「意図せざる結果」の社会学(2)
14. 「意図せざる結果」の社会学(3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席50%と毎回の報告内容50%による。

9. 教科書および参考書：

Eugene A. Rosa, Ortwin Renn, and Aaron M. McCright, 2014, “The Risk Society Revisited: Social Theory and Governance”, Temple University Press.

J. O. Zinn, 2008, “Social Theories of Risk and Uncertainty”, Blackwell.

A. Mica, 2018, Sociology as Analysis of the unintended, Routledge.

10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト(英語)を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：社会学研究実習 I / Sociology (Research) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時、前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM15309, 科目ナンバリング：LIH-SOC613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習（1）

2. Course Title (授業題目)：Field Work（1）

3. 授業の目的と概要：(1) 地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

社会調査実習(1)では、現地調査の準備作業までおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the theory and method of regional survey (social survey targeting communities). Students will experience the entire process of social research and acquire the ability to design and implement their own research.

5. 学習の到達目標：(1) 地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解できるようになる。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand the theory and method of regional survey (social survey targeting communities). Students acquire the ability to design and implement their own research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明）

第2回：地域調査の理論と方法(1) 基本データの収集法

第3回：地域調査の理論と方法(2) 農村研究と都市研究の理論と方法

第4回：地域調査の理論と方法(3) 生活史研究法

第5回：調査の構想についての議論

第6回：先行研究の検討

第7回：調査対象地についての情報収集と分析

第8回：調査企画の精緻化

第9回：予備調査(1) 対象地訪問と対象者の選定

第10回：調査項目の検討(1) 属性項目の検討

第11回：調査項目の検討(2) 内容分析項目の検討

第12回：調査票の作成(1) 前半部分の作成

第13回：調査票の作成(2) 後半部分の作成

第14回：予備調査(2) プリテストの実施

第15回：調査票の完成

8. 成績評価方法：

授業への貢献度（100%）

9. 教科書および参考書：

古島敏雄・深井純一 編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。

10. 授業時間外学習：地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会学研究実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時、後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM25307, 科目ナンバリング：LIH-SOC614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習 (2)

2. Course Title (授業題目)：Field Work (2)

3. 授業の目的と概要：(1) 地域調査 (地域社会を対象とした社会調査) の理論と方法を理解する。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

社会調査実習 (2) では、現地調査の実施から調査データの分析、報告書の作成、分析結果の口頭発表までおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand the theory and method of regional survey (social survey targeting communities). Students will experience the entire process of social research and acquire the ability to design and implement their own research.

5. 学習の到達目標：(1) 地域調査 (地域社会を対象とした社会調査) の理論と方法を理解できるようになる。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand the theory and method of regional survey (social survey targeting communities). Students acquire the ability to design and implement their own research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：現地調査についてのガイダンス (調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む)

第 2 回：地域調査の実施 (1) 1 回目の現地調査

第 3 回：地域調査の実施 (2) 2 回目の現地調査

第 4 回：地域調査の実施 (3) 3 回目の現地調査

第 5 回：現地調査データの整理集計

第 6 回：分析方針の検討

第 7 回：調査結果の分析 (1) 属性項目の分析

第 8 回：調査結果の分析 (2) 量的データの分析

第 9 回：調査結果の分析 (3) 質的データの分析

第 10 回：補充調査の実施

第 11 回：報告書の企画構成の検討

第 12 回：報告書の作成 (1) 基本属性の記述と点検

第 13 回：報告書の作成 (2) 量的・質的分析事項の記述と点検

第 14 回：報告の口頭発表

第 15 回：対象地での研究成果発表

8. 成績評価方法：

授業への貢献度 (100%)

9. 教科書および参考書：

古島敏雄・深井純一 編『地域調査法』東京大学出版会、1985 年。

10. 授業時間外学習：地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：